



新たな治療選択肢を患者さんに ——細胞医療・遺伝子治療への挑戦

細胞医療・遺伝子治療が創り出す 新しい価値

近年、ヘルスケア産業では、細胞医療・遺伝子治療など最先端のバイオテクノロジーを用いた新しい治療法の実用化が進んでいる。細胞医療は、生きた細胞を利用して病気やけがで損なわれた組織や臓器の機能を再生させる医療であり、脊髄損傷など様々な病気へ応用されている。また、遺伝子治療においては、遺伝子または遺伝子を導入した細胞を人の体内に投与することで、遺伝性の病気だけでなく、非遺伝性の病気の治療選択肢として応用することも可能である。これらの治療法はすでに欧州で29製品、米国で32製品、国内で17製品が承認されており、2030年まで市場として年率30%以上の成長率で拡大することが見込まれている。

細胞医療・遺伝子治療は、既存の治療法では十分でない、あるいは治療法がない病気で苦しむ患者さんに新たな治療選択肢を提供することで、病気の根本原因にアプローチすることによる症状の大幅な改善や、1回から数回の治療で効果を発揮して長期間の効果を示すことなどが期待されている。また、患者さんの病気に対する不安が軽減することや、患者さんやその周りの方々と社会のつながりを支えることができ、社会経済に好循環をもたらすといった多様な価値を社会に提供できる可能性がある。

視力の維持・回復に向けた アステラス製薬の挑戦

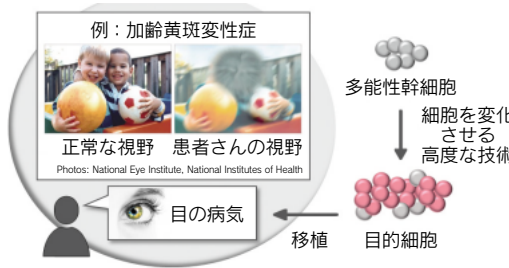
当社も細胞医療・遺伝子治療の研究開発に注力しており、中でも、失明リスクの高い目の病気を持つ

患者さんに対して、視力をつかさどる重要な細胞の機能に置き換わる、もしくはその機能を保護、回復するような新しい治療法の開発を目指している。

世界では、1億6000万人以上が失明リスクの高い目の病気にかかっているといわれており、患者さんのQOL(生活の質)に長期的かつ深刻な影響を与えている。そのうち、病状の進行により、網膜の視細胞が不可逆的な損傷を受けることで、視力低下や失明を引き起こす加齢黄斑変性症に対し、ヒト多能性幹細胞に由来する細胞を培養して、患者さんに移植する治療法の研究開発を進めている(図表)。

一方で、これらの新しい治療法の普及には、その価値を適切に評価する制度を含めた環境整備など、乗り越えるべき課題が多く残されている。産学官医が一体となってこれらの課題に取り組み、当社も革新的治療法の創出によって社会に新しい価値を提供できるよう、これからも挑戦を続けていきたい。

図表 アステラスが取り組んでいる細胞医療の例



(注1)Pharmaprojects® CITELINE 2023年2月
(注2)再生・細胞医療・遺伝子治療(経済産業省)
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono_bio/kennkyukaihatsu/saisei_idenshi_saisei_sabo_idenshi.html
(注3)参考資料:
Data from the WHO Blindness and Visual Impairment fact sheet
Version 8 Oct 2020
Data from the Foundation Fighting Blindness 2019 Annual Report.